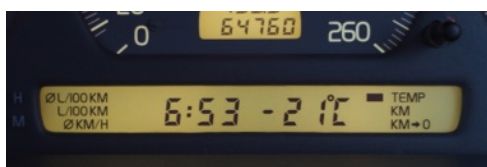


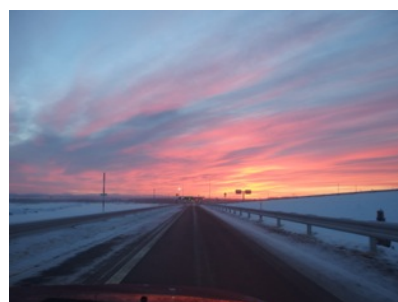
第5回ADCT研究会 参加報告記

国立大学法人北海道大学病院 診療支援部 笹木 工

朝5時、いや正確に言うと4時48分。携帯にセットした目覚まし音が鳴る前に自然と目が覚めた。いつも通りの朝食を済ませ、食後のニコチンチャージのためにベランダに出てみると冷たい空気で一気に覚醒した。今日はちょっと寒いかも、などと思いながら5分程度で部屋に戻り支度を始めた。車のエンジンをかけて表示される外気温を見るとマイナス10℃の表示。一気に目が覚めるのもうなずけた。高速を使って千歳に向かう道中では暖房をMAX状態で稼働させていたが一向に暖かにならない。それどころか水温計がドンドン下がっていく。故障でもしたのかとおもったが外気温計を見るとマイナス21℃の表示であった。暖房MAX+シートヒーターでも暖かにならないのも納得の気温であった。中部国際空港に降り立ったB737-700から一歩外にでた瞬間から感じる温度が全く違う。札幌で感じる「春」である。こうも違うものか… 雪のない滑走路と、この時期にバイクが走っている名古屋市内の景色に違和感を感じながら会場へ向かった。



新千歳空港の手前で表示された外気温はマイナス21℃

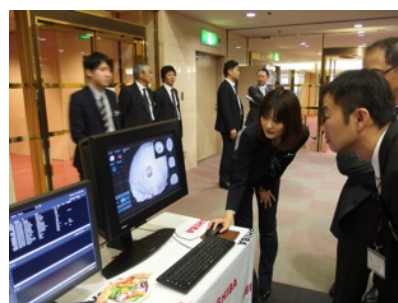


きれいな朝焼け

第5回ADCT研究会は名古屋 テレピアホールで行われた。参加人数は275名。会場は多くの参加者で埋め尽くされた。前回からADCT userに限定しないオープンの会になったとはいえ大盛会である。会場前で行われた機器展示でも、多くの参加者が押し寄せ身動きがとれない状態であった。



会場内の様子



裸眼3D display展示の様子

内容は、東芝メディカルシステムズからの情報提供、一般演題、基調講演、特別講演で編成された。印象深かったのは一般演題では機能を重視した内容が多かったことである。遠

友ser会世話人の一人である札幌医大の平野さんの発表を筆頭に整形外科領域や嚙下、IVR-CT、放射線治療にまでおよぶ各分野でADCTを最大限に活用した報告や問題点の提起があり、非常に勉強・参考になった。また井田理事長から、東芝メディカルシステムズは各地域のユーザー会からの意見や要望を議論できる場を組織する計画していることが説明された。今後の会の方針として、共同研究するサポートメンバーなどの紹介窓口や撮影プロトコルなども発信していきたいと述べた。

特別講演は片田先生による「ADCTの最近の話題」という題目での御講演であった。片田先生の御講演はいつ拝聴してもpowerfulである。「片田節」ともいえる独特の口調と話の組み立て方は聞いている者にとってある意味安心感すらおぼえる。自分たちが歩んできた道が間違いではなく他社も追従するであろうという主張に対して異を唱えることはできず、全メーカーが進む（あるいは通過する）方向であろうと思われた。印象に残った言葉がある。それは、我々はまだONEの性能を十分に引き出せていないという発言である。「おまえら、もっとアタマ使ってイロイロ考えろよ！ 素材は良いんだから後はどう料理するかだっ！」と受け取らせていただいた。片田先生ならではの、我々診療放射線技師に対する叱咤激励であると勝手に解釈させていただいた。調理方法を間違っただけで折角の素材が台無しになることは想像に難くない。でもどうやって料理をしたらあの片田先生を唸らせることができるのか… また答えが出せないまま会場をあとにした。